

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑨【地域の人々とのつながり】 被災者や高齢の人々が一緒に生活している地域社会において、互いに支え合うことの大切さを実感する。 ⑩【ボランティア】 被災者や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。	特別活動 総合的な学習の時間 道徳の時間

【題材】

「あたたかい心の輪を広げよう」

【対象】

住田町立有住小学校 第4・5・6学年児童 46名

【実践の概要】



本題材の実践では、上記「具 体 の 項 目」をねらいとし、本校の重点研究としている道徳教育と、特別活動・総合的な学習の時間に位置付け、相互に関連を図りながら学習活動を展開した。実際の指導を進めるにあたり、

- 1 特別活動や総合的な学習の時間を実施してきた地域に関連する体験活動を見直し、その充実を図る。
- 2 体験活動を通して得た思いや気づきを、道徳の時間と関連させながら補充、深化、統合を図る。

以上の2点を指導の柱とし、相乗効果をもって児童の内面に根ざした心や態度の育成を図れるよう取り組んだ。

【実践の実際】

1 地域とかかわりあたたかい心をはぐくむ体験活動

実践① 「有住の仮設住宅で暮らす人たちと交流しよう」 児童会活動

〈 運動会、学習発表会に招待しよう 〉

地域の仮設住宅の人たちを運動会や学習発表会に招待し、自分たちの頑張る姿を見てもらうことで少しでも元気になってもらおうと活動に取り組んだ。そこで4・5・6年生全員で招待状を書き、児童会執行部が仮設住宅一軒一軒を訪問し、一人一人に自分たちの思いを伝えながら招待状を配付して歩いた。

〈 自分たちで育てた花を贈ろう 〉

運動会に招待したことをきっかけに、本校で毎年行っている学校花壇づくりの活動を生かし、自分たちが心を込めて育てた花を地域の仮設住宅の人たちへ贈ることにした。児童は少しでも喜んでもらおうと、花植えや水やり、草取りなどのお世話に毎日熱心に取り組んだ。育てた花は全戸に4・5・6年生代表が届けてもらった。



実践② 「有住で暮らす高齢の人たちのお家をきれいにしてよう」 地区子供会活動

有住中学校と連携をし、地域の高齢の人たちのお家を訪問し、清掃活動に取り組んだ。事前の交渉は中学校の生徒が行った。清掃活動の当日、児童は生徒と共に窓ふきや床ふき、畑の草取り作業など、汗をかきながら一生懸命に働いた。清掃の合間や終わりには、冷たい飲み物やおやつをこちそうになりながら様々な話をするなど、人の役に立つということに加え、人とかかわりを深めるよい体験活動となった。



地域の人の感想から

- 先日は、きれいなお花、本当にありがとうございました。花を眺めていると、いつも心がなごみやされます。大切に育ててくれたお花ですのでこれからも花を眺めながら大事に育てます。
- すっかり秋になりました。有住小学校の皆さんが、一生懸命に育てたお花をありがとうございました。住宅の皆さんも喜んでますよ。～中略～元気に過ごしていますので、皆さんもガンバッテネ!
- 孫のような子どもたちに、家をきれいにしてもらいとても助かりました。また、たくさんのお話をすることができて、楽しいひとときとなりました。



実践③ 「震災津波被災地の今の様子を自分の目で確かめよう」 総合的な学習の時間

震災津波被災地の今に触れるため大船渡市と陸前高田市を訪れた。大船渡市では、三陸鉄道震災学習列車を利用し、車窓からの景色を眺めたり、ガイドからの被害状況を聞いたりした。陸前高田市では地元ガイドの案内を受けながら奇跡の一本松や旧市街地などを巡った。児童はメモを取るなどしながら、熱心に被災状況や現在の状況を確認していた。

見学後、被災地の今を家庭や地域に伝えるため、4年生はポスターづくり、5・6年生は新聞づくりという形で、見たり聞いたりしたことや、気づき、思いをまとめる学習に取り組んだ。



2 体験活動で得た気付きや思いを深める道徳の時間

実践① 主題名「進んで人のために」 資料名「神戸のふっこうは、ほくらの手で(学研)」 内容項目4-(2) 勤労・奉仕(ねらい)

社会生活を営む中で、自分にできることを見つけて積極的に働くことの意義や大切さを知り、社会のために進んで役に立つとしようとする心情や意欲を育てる。

〈展開の概要〉

導入：阪神・淡路大震災の写真を見て、どんなことを感じたか感想を発表し合った。

展開：前段では資料を読み、主人公がみんなの役に立つ仕事をしようと思っよう姿を通して、進んで社会のために働くことの意義を理解させるようにした。後段では、人のために今の自分ができることを考えた。

終末：震災津波被災地見学学習でまとめたポスターを紹介し、思いを深めるようにした。

〈体験活動との主な関連付け〉

展開後段で、身近なことからみんなのために今の自分ができることを考えさせた。そのうえで、終末で震災津波被災地見学学習でまとめたポスターから、成長した自分がどのように復興にかかわっていきたいかを綴ったものを紹介し、今もっている思いを一層深め、今から未来への自分のあり方について改めて見つめさせるようにした。



実践② 主題名「思いやりの心をもって」 資料名「折り紙の花たば(学研)」 内容項目2-(2) 思いやり・親切(ねらい)

相手の立場や気持ちを考えて、親切にしようとする心情を深める。

〈展開の概要〉

導入：仮設住宅の人へ花を育て贈った活動や地域の高齢者のお家を掃除した活動などを想起し、活動時の気持ちなどを話し合った。

展開：前段では資料を読み、主人公の高齢者に対する感謝の気持ちや、親切な行為をすることの喜びに気付いていく姿を通して、思いやりの心で接することの大切さを深めるようにした。後段では、これまで人に親切にする時、どんなことを心にかけてきたかを振り返らせた。

終末：地域にかかわる一連の体験活動に関連付けながら、身近な人に自分ができそうな親切や思いやりについて考えた。

〈体験活動との主な関連付け〉

導入で、仮設住宅の人へ花を贈った活動や地域ボランティアなどの体験活動を想起させることで、本時のねらいと体験活動の価値への方向付けを行った。終末では導入で話し合った一連の体験活動と関連付けながら、自分ができる思いやりや親切は、相手の心情に立ってみることに始まり、自分の身近なところから行っていけることに気付かせるようにした。

実践③ 主題名「社会に役立つ喜び」 資料名「よみがえれ日本海(学研)」 内容項目2-(4) 勤労、社会奉仕、公共心(ねらい)

地域活動やボランティアなどの奉仕活動の意義を理解し、人や社会のために働く喜びを知り、公共のために積極的に役立とうとする意欲や態度を育てる。

〈展開の概要〉

導入：ナホトカ号重油流出事故の写真を見て話し合った。

展開：前段では、1997年に起きた、ナホトカ号重油流出事故に取り組んだ実話をもとに、全国から集まってきたボランティアたちの思いや、登場人物たちの思いについて話し合いを行った。その中で、働くことの意義と社会のために役立つことの大切さに気付かせるようにした。後段では、震災津波被災地見学学習を想起させ、今の自分ができることは何かを考えさせた。

終末：東日本大震災で活動したボランティアの人の話と、ボランティアに来てもらった被災者の話を紹介し、理解を深めさせるようにした。

〈体験活動との主な関連付け〉

展開後段で、震災津波被災地を見学してきた時の資料等を提示することで一連の学習を想起させ、震災津波被災地の復興に向けての自分の思いと関連付けながら、今の自分ができることは何かを考えさせた。終末では、震災津波被災地で活動したボランティアとその助けを受けた人の話を紹介することで、復興に向けての自分の思いを一層深めることができるようにした。



児童の感想から

- 一生懸命育てた花のことを喜んでもらって嬉しかったです。
- 地域のおじいさん、おばあさんのおうちをきれいにしよう頑張って掃除したら、おじいさん、おばあさんがとても喜んでくれたので嬉しかったです。また、手伝いこいきたいなあと思いました。
- 困っている人がいたら助けたり、汚れているところがあったらきれいにしたり、進んで自分ができることをしたいです。
- 被災地見学をしてみて思ったことは、命の大切さと自然のこわさです。自然災害が起きたらどうすればよいかを普段から考えておきたいです。それに、大きくなったら人の役に立つことをしたいと思います。
- 学習を通して、悲しくなったところもあるけれど、みんなで力を合わせて、どんどん前を向いて歩いていこうと思いました。
- ほくが大人になってもまだ復興していないなら、ほくがみんなの役に立てるように頑張りたいです。そして、みんなが安心して暮らせるようなまちをつくりたいです。



3 まとめ

目的意識を明確にし地域とかかわる体験活動に臨ませたことで、児童は意欲的に活動に取り組んでいた。人とかがわり合う中で、そのよさや人の役に立つことの喜びを感じることもできたようである。また、震災津波被災地見学を組み込むことにより、今の被災地の状況を感じ取り、これからの自分のあり方考えるよい機会となった。そして、これら一連の体験学習の価値化を図るため道徳の時間の学習と関連付けて指導を行ったが、体験したことが生かされ、ねらいとする価値への思いを一層深めることにつながった。

このように体験活動と道徳教育を相互に関連付けながら本題材を進めたことにより、児童は地域にかかわることのよさや、地域や被災地に思いを寄せて自分ができることを考える大切さについて実感しながら学ぶことができた。